

PeopleSoft®

---

EnterpriseOne 8.9  
Solution Explorer  
PeopleBook

---

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9  
Solution ExplorerPeopleBook  
SKU AC89JSE0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

#### オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為(過失および故意を含む)のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

# 目次

---

<b>Solution Explorer</b>	<b>1</b>
Solution Explorer 用ホーム・ページの設定 .....	3
構成の初期化と詳細設定 .....	4
<b>タスク・ビューの設定</b>	<b>6</b>
タスク・ビューの作成 .....	6
タスク・ビューの変更 .....	7
タスク・ビューの削除 .....	8
タスク・ビューのロールとバリエーションの処理 .....	9
タスク・ビューのロールまたはバリエーションの定義 .....	9
ロールまたはバリエーションの変更 .....	10
<b>タスクの設定</b>	<b>12</b>
タスクの作成 .....	14
タスクの処理 .....	20
既存のタスクの挿入 .....	20
タスクのデフォルト処理オプションの設定 .....	22
タスクのバージョンの設定 .....	22
タスクへのロールの適用 .....	22
タスクの変更 .....	24
Solution Modeler と J.D. Edwards ソフトウェア間でのタスク名とタスク状況の同期化 .....	24
タスク名の同期化 .....	25
Solution Modeler と J.D. Edwards ソフトウェア間でのタスク状況の同期化 .....	25
タスクの削除 .....	25
オブジェクト管理ワークベンチの Solution Explorer タスクおよびタスク・リレーション シップの変更の検索 .....	26
タスク・リンクの処理 .....	27
タスクの文書化 .....	29
タスク・ドキュメンテーションの優先順位 .....	30
ドキュメンテーションの処理 .....	30
ドキュメンテーション・カテゴリの追加 .....	32
<b>アクティベータ</b>	<b>33</b>
アクティベータの理解 .....	33
アクティベータ・フラグ .....	33
ユニバーサル・ディレクタ .....	34
データ・マッピング .....	34
アクティベータの作成 .....	35

例: アクティベータの作成 .....	35
スタンドアロンの略式コマンド .....	38

---

## Solution Explorer

Solution Explorer を使用すると、J.D. Edwards ソフトウェアに簡単にアクセスできます。Solution Explorer は、ビジネス・ニーズに合わせて柔軟にカスタマイズできるように設計されており、条件や要件を変更して調整できます。

Solution Explorer には、次の重要な属性があります。

- 簡単なナビゲーション。Solution Explorer には、Web ブラウザ・ベースのカスタマイズ可能な、すべての機能および内部や外部 Web サイトへのゲートウェイがあります。タスク・ビューを使用すると、ショートカットを作成することで手軽に移動できるようにして作業時間を短縮できます。検索機能を使用すると、OneWorld プログラムを検索できます。
- 柔軟性。タスクと呼ばれる再利用可能なユニットが Solution Explorer の中心となります。これらのタスクをベースとして、システム変更にかかる費用を下げずに修正可能なビジネスやテクニカルな処理をモデル化したり作成したりできます。
- 変更可能な環境設定。日次処理に使用するタスクやプロセスのみを表示するように、システムを設定できます。タスクの使用を切り替えて、システム・ユーザーの必要に応じてプロセスを変更できます。
- 操作性。Solution Explorer では、アクティベータと呼ばれる特殊なタスクを作成できます。アクティベータを使用する、フォーム・インターコネクトをハードコード化せずにプロセスをビルドできます。アクティベータによりユニバーサル・ディレクタが起動され、作成するプロセスにグラフィカルなインターフェイスを提供し、フォーム間でデータを交換できるようにします。ユニバーサル・ディレクタは、プロセスのステップを読みやすい形式で表示していきます。
- 互換性。Solution Explorer のアーキテクチャは、ソフトウェア開発者やインテグレーション・パートナーがサードパーティのソフトウェアと J.D.Edwards ソフトウェアの両方と互換性のあるカスタム・アクティベータを作成できるように設計されています。
- 実用性 Solution Explorer のほとんどのタスクにはドキュメンテーション・タスクがあります。タスクで不明な点がある場合に解決法を参照できるようになっています。新しいタスクにも自分でドキュメンテーションを作成できます。ドキュメンテーションには常時アクセスが可能です。

### このガイドの使用方法

Solution Explorer は、さまざまなニーズを持ったユーザーがそれぞれ異なる方法で使用できます。仕訳入力などのビジネス・タスクを実行するエンドユーザーは、ジョブの完了に必要なタスクに簡単にアクセスできます。この種のユーザーは、ホーム・ページから Solution Explorer にアクセスできます。通常、この種のユーザーが Solution Explorer をカスタマイズすることはありません。

システム・セキュリティの設定と維持管理のほとんどは、システム管理者が行います。通常、この種のユーザーは各種の選択を行うだけで Solution Explorer の基本構造を理解できます。

### 参照

- 『基本操作』ガイドの「Solution Explorer」
- 『システム・アドミニストレーション』ガイドの「セキュリティ」

## Solution Explorer 用語の一覧

このガイドでは、Solution Explorer の基本概念について詳しく説明します。そこで、次の表には最も重要な Solution Explorer 用語の定義をまとめてあります。

### Solution Explorer 定義 用語

ホーム・ページ	<p>Solution Explorer の起動時に最初に表示される内容の URL。この URL を設定するには、jde.ini ファイルを次のように構成します。この例では、ホーム・ページは J.D. Edwards ポータルを表示するように構成されています。</p> <pre>[EXPLORER] JASWebServer = "toolsjass1" JASPortalURL="http://toolsjass1/jdeowportal" JASForceEnv= ExplorerHomeURL="toolsjass1/jde/portal" ExplorerStart=home</pre> <p>また、ExplorerStart=task に設定すると、最後に表示されていたタスクを表示するようにホーム・ページを構成できます。特定のタスク・ビューを定義するには、ExplorerStart=task:1234 に設定します。1234 はタスク・ビューID です。</p>
Solution Explorer	使用可能な場合はタスクの内容を含む、J.D. Edwards ソフトウェアと関連オブジェクト用の構成可能なエクスプローラ。
タスク	重要なビジネス・プロセスをビルドするための処理単位。タスクには、対話型プログラム、バッチ・プログラム、固定情報、自動採番、Windows 実行可能ファイルなどがあります。
タスク・リレーションシップ	〈調達から支払まで〉など、ビジネス・プロセスを形成する一連のタスク。親子関係を持つように整列されています。
タスク・ビュー	Solution Explorer に表示される、関連タスク・リレーションシップの集合。
タスクのリンク	リレーションシップ間のショートカット。リンク先のタスクは、Solution Explorer のセカンダリ・ウィンドウに表示されます。
アクティベータ	ユニバーサル・ディレクタを起動するための特殊なタスク。アクティベータにより一連のタスクが論理的にリンクされます。これにより、ビジネスやテクニカルな専門家は、多額の費用を伴うダウンタイムを発生させずに直ちにシステム変更を行うことができます。
ユニバーサル・ディレクタ	タスク・アクティベータにアクセスすると起動するグラフィカル・ユーザー・インターフェイス。ユニバーサル・ディレクタは、アクティベータを処理するための一貫したフレームワークと、アクティベータの完了に必要な J.D. Edwards ソフトウェアのフォーム間でデータをやりとりするためのメカニズムを提供します。
修飾子ルール	独自に作成、適用し、タスクの有効/無効を切り替えるためのベースとして Solution Modeler と併用する IF-THEN ステートメント。各タスクに関する Solution Modeler からの質問とそれに対する回答が修飾子ルールと比較され、比較結果に基づいて、タスクを有効化または無効化するバッチ・プロセスが生成されます。

ファイン・カット Solution Modeler を使用してタスク・ビュー構成を作成した後、タスク・ビューで各タスクを選択的に有効化または無効化するために使用するプロセス。

タスク・ビュー・  
ロール ファイン・カットを使用して作成するタスク・ビューのバリエーション。ロールを定義する際に、タスク・ビューで各タスクを選択して無効化してから、そのロールを保存します。変更内容はシステムで保管され、デフォルトのタスク・ビューの代わりとしてアクティブ化できます。

## Solution Explorer 用ホーム・ページの設定

ホーム・ページは、通常、ユーザーが Solution Explorer にサインオンすると最初に表示されるフォームです。このフォームには、社内のエンドユーザーに関連する情報を表示できます。ホーム・ページには、外部の Web サイト、イントラネット・サイト、またはサーバーやネットワークに保管されている HTML ファイルを使用できます。

デプロイメント・サーバーをインストールすると、インストール・プロセス中に PortalLite というディレクトリが作成されます。このディレクトリは `<baseinstall>\%ActivEra%\PortaLite` ディレクトリに置かれ、デフォルトのホーム・ページを構成する HTML ファイル一式が格納されます。このディレクトリはデプロイメント・サーバー上にありますが、Web サーバー上やローカル・ワークステーションなど、ネットワーク上のどこにでも置くことができます。

J.D. Edwards クライアントのインストール時には、クライアントの `jde.ini` が PortalLite ディレクトリの位置を指すように更新されます。たとえば、デプロイメント・サーバー名が `DepServer1`、共有名が `B7333` であれば、`jde.ini` ファイルの `[Explorer]` セクションが次のように更新されます。

[Explorer]

ExplorerHomeURL="%%DepServer1%b7333%activEra%portallite%index.html

ExplorerStart=INTERNET

`jde.ini` ファイルの上記のパラメータを変更すると、デフォルトのホーム・ページとして任意の HTML ファイルや URL を表示できます。次の表はこれらのパラメータを示します。

[Explorer]のパラメータ	説明
ExplorerHomeURL=	ユーザーのサインオン時に表示されるホーム・ページの URL またはファイル名。デフォルトでは、初期ページは <code>%%Depserver1%b7333%activera%portalite%index.html</code> です。
ExplorerStart=	Solution Explorer の起動時に表示される情報。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Internet: Solution Explorer の起動時には、最初にインターネット・ビューが表示されます。</li><li>Task: Solution Explorer の起動時には、ユーザーが最後に表示していたタスク・ビューが表示されます。特定のタスク・ビューを表示するには、<code>ExplorerStart=TASK:xx</code> に設定します。xx はタスク・ビューのタスク ID です。</li></ul>

## 構成の初期化と詳細設定

---

J.D. Edwards ソフトウェアの導入時には、システムでビジネスを定義し、ユーザーに対して使用可能にするタスクを指定して、Solution Explorer をセットアップする必要があります。そのためには、ファイン・カットと呼ばれるユーティリティを使用します。

ファイン・カットでは、タスク・リレーションシップが有効化または無効化され、それがファイン・カットを実行した Solution Explorer の各タスク・ビューに反映されます。また、ファイン・カットを使用して構成の詳細を設定することもできます。ビジネスの変化に対応して継続的にファイン・カットを使用し、該当するタスク・リレーションシップを有効化または無効化できます。

システムの初期構成は、ファイン・カットを使用して実行します。

J.D. Edwards ソフトウェアでは、複数のセッションにまたがってビジネス・システムを定義できます。必要に応じて作業内容を保存し、後でファイン・カットに戻って作業を続行できます。

### ▶ 構成を初期化または詳細設定するには

---

1. Solution Explorer で、詳細設定を行うタスク・ビューを選択し、ツールバーの[ファイン・カット]ボタンをクリックします。  
タスク・ビュー・メニューが、有効化されているタスクと無効化されているタスクを示すように変更されます。緑のチェック・マークは有効化されているタスク、赤の X は無効化されているタスクを示します。
2. タスク・ビューでタスク・ツリーを展開し、有効化または無効化するタスクを探して選択します。
3. ツールバーの[有効]または[無効]ボタンをクリックします。  
タスクをダブルクリックして有効および無効を切り替える方法もあります。
4. 有効化または無効化するタスクごとにステップ 2~4 を繰り返します。
5. タスク・リストの詳細設定の完了後に、ツールバーの[保存]ボタンをクリックします。

[保存]をクリックすると、変更内容がタスク・リレーションシップ・テーブル(F9001)に保存され、そのデータベースにアクセスするユーザー全員が使用可能になります。

変更内容を保存しないと、システムでは新規のパラメータを保管できず、Solution Explorer を終了して後で再起動しても変更内容が反映されません。

---

**注:**

ロール・ベースのタスク・ビューでファイン・カットを使用すると、特定のロールに関する変更のみを保存できます。そのためには、タスク・ビュー・ノードを右クリックして[ロールの保存]を選択します。このタスクを実行しても、タスク・リレーションシップ・テーブル(F9001)は更新されません。

ロール・ベース以外のタスク・ビューでファイン・カットを使用すると、変更内容をバリエーションとして保存できます。そのためには、バリエーションを関連付ける親タスクを右クリックし、[バリエーションの保存]を選択します。このタスクを実行しても、タスク・リレーションシップ・テーブル(F9001)は更新されません。

---

6. [ファインカット]ボタンをクリックしてファイン・カット・モードを終了します。
7. [無効なタスクの表示/非表示]ボタンをクリックし、現行のタスク・ビュー・メニューに無効なタスクを表示するかどうかを設定します。

---

## タスク・ビューの設定

タスク・ビューには、タスクのグループが階層ツリー形式で表示されます。タスクとは、Solution Explorer の最小単位です。各タスクはタスク・ビューに階層ツリー形式で表示されます。J.D. Edwards は数千のタスクを用意しており、独自のタスクを追加することもできます。タスクを 1 つのタスク・ビューにまとめてしまうと、数千のタスクから特定のタスクを選択するのが難しくなり、時間がかかります。

タスク・ビューを 1 つだけ使用してシステムに表示されるタスクをすべて表示する代わりに、Solution Explorer では多数の異なるタスク・ビューを使用し、それぞれにシステム内の一部のタスクのみを表示できます。

一般的に、タスクは共通するビジネス・システム、プロセス、または機能に関連しているため、1 つのタスク・ビューの中でグループ化されます。このようにしてタスクを論理的に選択してグループ化することで、ユーザーは必要な機能を見つけやすくなります。タスク・ビューをロール・ベースとして指定すると、そこに表示するタスクを詳細に設定できます。ロール・ベースのタスク・ビューには、そのタスクに適用したロールに関連付けられているタスクのみが表示されます。ユーザーが適用できるのは、アクセス権が許可されているロールのみです。

また、Solution Explorer に対して View(表示)アクセス権のみを持つユーザーについては、保護対象として設定したタスク・ビューの表示を禁止できます。

### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・ビューのロールとバリエーションの処理」
- 『Solution Explorer』ガイドの「タスクの設定」
- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・リンクの処理」

---

## タスク・ビューの作成

新しいカテゴリのタスクを作成してタスクを挿入し、タスク・リレーションシップを作成する必要がある場合は、タスク・ビューを作成します。

### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスクの処理」
- 『Solution Explorer』ガイドの「タスクの作成」

### ▶ タスク・ビューを作成するには

---

1. Solution Explorer で、[ツール]メニューから[タスク・ビューの追加]を選択します。
2. <タスクビューの改訂>で、次のフィールドに値を入力してオプションを選択し、[OK]をクリックします。

- タスク・ビュー

タスク・ビューの内部 ID を入力します。この ID は 2~5 桁の数字で、英字は使用できません。ID が複数の 0(ゼロ)で始まる場合は 0 が 1 個になるように切り捨てられます。たとえば ID として“005”と入力すると、“05”に変更されます。

- 名称
- 記述  
名称と記述は同じでなくてもかまいません。
- 不許可タスクビュー
- ロールベースのタスク・ビュー  
ユーザーに各自のロールに基づいてタスク・ビューのタスクをフィルタさせる場合は、このオプションを有効にします。

## フィールド記述

記述	用語解説
不許可タスクビュー	タスクビューを「不許可」にすると、そのユーザーのセキュリティ設定に応じて、タスクビューを隠すことができます。タスクビューにマークが付いていて、そのユーザーエクスプローラのビューセキュリティのみがある場合、ユーザーはタスクビューを表示することができません。タスクビューにマークが付いていて追加または変更のセキュリティがある場合は、タスクビューを表示できます。

## タスク・ビューの変更

既存のタスク・ビューを修正できます。たとえば、タスク・ビューに表示されるタスクのカテゴリが正確に反映されるように、タスク・ビュー名を変更できます。

### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・ビューのロールとバリエーションの処理」
- 『Solution Explorer』ガイドの「タスクの処理」

### ▶ タスク・ビューを変更するには

1. Solution Explorer で、[ツール]メニューから[タスクの処理]を選択します。  
また、現行のタスク・ビューを変更する場合は、最上位のタスク・ビュー・ノードを右クリックし、メニューから[タスクの改訂]を選択します。ステップ 5 に進みます。
2. <タスクの処理>で、[フォーム]メニューから[タスク・ビュー]を選択します。
3. <タスク・ビューの処理>で、[検索]をクリックします。  
検索対象を絞り込むには QBE を使用してください。
4. 変更するタスク・ビューを選択して[選択]をクリックします。

5. 〈タスク・ビューの改訂〉で、次のいずれかのフィールドとオプションを変更し、[OK]をクリックします。

- 名称
- 記述  
名称と記述は同じでなくてもかまいません。
- 不許可タスクビュー
- ロールベースのタスク・ビュー  
ユーザーに各自のロールに基づいてタスク・ビューのタスクをフィルタさせる場合は、このオプションを有効にします。

### フィールド記述

記述	用語解説
不許可タスクビュー	タスクビューを「不許可」にすると、そのユーザーのセキュリティ設定に応じて、タスクビューを隠すことができます。タスクビューにマークが付いていて、そのユーザーエクスプローラのビューセキュリティのみがある場合、ユーザーはタスクビューを表示することができません。タスクビューにマークが付いていて追加または変更のセキュリティがある場合は、タスクビューを表示できます。

## タスク・ビューの削除

タスク・ビューは、システムから削除できます。ただし、タスク・ビューを削除しても、そのビューに含まれるタスクはシステムから削除されません。

### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・ビューの作成」
- 『Solution Explorer』ガイドの「タスクの削除」

### ▶ タスク・ビューを削除するには

1. Solution Explorer で、[ツール]メニューから[タスクの処理]を選択します。
2. 〈タスクの処理〉で、[フォーム]メニューから[タスク・ビュー]を選択します。
3. 〈タスク・ビューの処理〉で、[検索]をクリックします。  
検索対象を絞り込むには QBE を使用してください。
4. タスク・ビューを選択して[削除]をクリックします。
5. 〈削除の確認〉で[OK]をクリックします。

## タスク・ビューのロールとバリエーションの処理

---

ロールとバリエーションを使用して、特定のタスク・ビューまたはその一部を特定のユーザー・グループ用にカスタマイズできます。ロールとバリエーションでは、元のタスク・ビューに含まれるタスクのサブセットを定義します。これにより、タスク・ビューをカスタマイズして簡素化できます。

ロールはロール・ベースのタスク・ビューにのみ適用され、そのロールへのアクセスを許可されているユーザーのみが使用できます。ロールは常にタスク・ビュー全体に適用されます。

バリエーションはロール・ベース以外のタスク・ビューに適用され、ユーザー全員が使用できます。タスク・ビュー・ノード(タスク・ビュー・メニューの一番上に表示される最初のノード)のバリエーションを作成すると、タスク・ビュー全体のバリエーションになります。また、タスク・ビューの親タスクについてバリエーションを作成することもできます。

ロールとバリエーションを使用すると、タスク・オブジェクトのさまざまなバージョンをユーザーに対して使用可能にできます。また、バージョンごとに異なるタスク記述を使用できます。さらに、1つまたは複数のバリエーションが使用可能なノードにリンクすると、リンク先としてベース・ビューまたはそのバリエーションを選択できます。バリエーションにより元のタスク・ビュー・メニューが置き換えられることはありません。これはあくまでもユーザーが手作業で適用およびクリアする必要のある代替ビューであり、システムにリンク先として表示できます。タスク・ビューで特定のノードのバリエーションを作成する場合は、どのノードを選択すればそのバリエーションを適用できるかを知る必要があります。

### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・リンクの処理」

## タスク・ビューのロールまたはバリエーションの定義

ロールまたはバリエーションを定義するには、ファイン・カット機能を使用してタスク・ビューの詳細を設定し、結果を保存します。ロールまたはバリエーションはユーザー分析のニーズに基づいて定義してください。

### ▶ ロールまたはバリエーションを定義するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、ツールバーの[ファイン・カット]ボタンをクリックします。
2. 親タスクを選択してタスク・ツリーを展開し、無効にするタスクを表示します。
3. 無効にする各タスク・ビューを選択して[無効]をクリックします。
4. バリエーションに表示しないタスクをすべて無効にした後、親タスクを選択します。
5. ロール・ベースのタスク・ビューを表示している場合は、右クリックして[ロールの保存]を選択し、ステップ 6 に進みます。ロール・ベース以外のタスク・ビューを表示している場合は、右クリックしてメニューから[バリエーションの保存]を選択し、ステップ 7 に進みます。
6. <ロールの保存>で、既存のロールを選択して[選択]をクリックするか、新規ロールを作成します。

---

### 注:

ロールの作成方法については、『システム・アドミニストレーション』ガイドの「ユーザー・ロールの追加」を参照してください。

---

7. 〈新規バリエントの作成〉で、バリエントの記述を入力して[OK]をクリックします。

変更内容がユーザー定義コード・テーブル(F9005)とビジネスユニット・マスター(F9006)に保存されます。

## ルールまたはバリエントの変更

ルールやバリエントを修正し、Solution Explorer タスク・ビューの構成を制御できます。たとえば、デフォルトのタスク名とバージョンを一時変更すると、ルールやバリエントをデフォルトのタスク・ビュー定義と区別できます。ルールやバリエントの名称とバージョンを変更すると、他のユーザーがルールやバリエントとデフォルト・ビューの違いを理解しやすくなります。特定のルールまたはバリエント・ビューを表示している間に、デフォルト・バージョン以外のプログラムを処理したり、そのバージョンを一時変更として設定できます。一時変更を設定した後は、再変更が必要にならない限り、そのルールやバリエントに含まれるタスクのバージョンを変更する必要はありません。

新規タスク名の割当てなど、ルールやバリエントに対する変更は、そのルールまたはバリエントにのみ適用されます。デフォルトのタスク・ビューを定義するプロパティは、システムで保持されます。オリジナルのビューを置き換えるのではなく、ビジネスに必要な特定の状況で使用する代替ビューを作成してください。

### ▶ ルールを変更するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、ツールバーの[ファイン・カット]ボタンをクリックします。
2. タスク・ビューでルート・タスクを右クリックし、メニューから[ルール別の表示]を選択します。
3. 〈ルール別の表示〉で、変更するルールを選択して[選択]をクリックします。
4. タスクをダブルクリックし、リレーションシップをアクティブまたは非アクティブにします。または、タスク・ビューでタスクを右クリックし、[名称の一時変更]を選択してタスク名を変更します。
5. タスク・ビューのルート・タスクを右クリックし、[ルールの保存]を選択します。
6. ルールを選択して[選択]をクリックします。
7. [ファイン・カット]をクリックしてファイン・カット・モードを終了します。

### ▶ バリエントを変更するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、ツールバーの[ファイン・カット]ボタンをクリックします。
2. バリエントを持つタスク・リレーションシップの親タスクを選択します。
3. 親タスクを右クリックし、メニューから[バリエントの管理]を選択します。
4. 〈バリエント名の検索/選択〉で、変更するバリエントを選択して[選択]をクリックします。  
〈バリエントの定義〉フォームが表示され、現行ノードの下にすべての子タスクが表示されます。

〈バリエントの定義〉フォームには、〈コンテンツ開発ツール〉タスク・ビューからアクセスすることもできます。〈バリエントの処理〉タスクを起動し、変更するバリエントを検索して選択します。

5. 必要に応じて各ローのカラムを変更し、[OK]をクリックします。
  - アクティブ
  - タスク名一時変更
  - 一時変更タスクバージョン
6. 〈バリエーション名の検索/選択〉フォームを閉じます。
7. [ファイン・カット]ボタンをクリックしてファイン・カット・モードを終了します。

#### フィールド記述

記述	用語解説
アクティブ	タスクがバリエーション内でアクティブかどうか決定するフラグ。
タスク名一時変更	タスク名がバリエーション内で使用される場合、ユーザーによる一時変更を可能とするフラグ。
一時変更タスクバージョン	バリエーションで使用する際に呼び出されたバージョンを一時変更するためのフラグ。

---

## タスクの設定

システムを設計して管理するにはタスクを処理します。タスクとは、重要なビジネス・プロセスのビルドに使用する作業単位です。タスクには、対話型プログラム、バッチ・プログラム、固定情報、自動採番、Microsoft Windows 実行可能ファイルなどがあります。タスクの処理には Solution Explorer を使用します。Solution Explorer は親子関係の階層形式でグループ化された関連タスクの集合であり、各タスクがタスク・ビュー・メニューにグラフィック表示されます。通常、これらのタスク・グループは、〈調達から支払まで〉など、重要なビジネス・プロセスのステップを表します。

J.D. Edwards では多数のタスク選択が用意されており、すでにさまざまなタスク・ビューでリレーションシップ別にグループ化されています。既存のタスクとそのリレーションシップを修正できます。また、新規のタスク、タスク・リレーションシップ、およびビューを作成することもできます。

タスク・ビューに新規または既存のタスクを挿入し、各タスクを論理順に整列させます。処理中にタスクを作成または改訂し、必要に応じてタスク・ビューに挿入して、ビジネス・プロセスを拡張します。これによりプロセスが流動的になります。つまり、タスクとタスク・リレーションシップをドラッグ&ドロップして、リレーションシップやタスクの実行順序を変更できます。

タスク・ビューの各タスクはタスク・マスター(F9000)に保管され、それぞれに固有 ID が割り当てられます。各タスクは再利用可能なオブジェクトであり、既存のタスク・リレーションシップに挿入したり、新規タスク・リレーションシップを作成する際の基礎として使用できます。タスク・ビューにタスクを挿入した後は、移動、改訂、関連文書の記述、処理オプションの設定、バージョンの設定、および検索を行うことができます。これらの機能を Solution Explorer で実行するには、対話型プログラムを起動する方法と、Solution Explorer の機能や関数を使用する方法があります。

次のリストに、各タスク・タイプについて説明します。

### 対話型

このカテゴリは、対話型の J.D. Edwards ソフトウェア・プログラム(AAI および固定情報プログラム以外)に使用します。このタスクをユーザーが実行すると、対応するプログラムが実行されます。プログラムのバージョンと、必要な場合はタスクで起動するフォームを定義できます。また、処理オプションのプロンプトを表示するかどうかと、フォームを開いたときのモード(デフォルト、追加、更新、削除)も制御できます。通常、この最後のパラメータを使用するのは、タスクをユニバーサル・ディレクタ・プロセスで使用する場合のみです。

### バッチ

このカテゴリは、J.D. Edwards ソフトウェアのバッチ・プログラム(レポートなど)に使用します。このタスクをユーザーが実行すると、バッチ・プログラムが処理に投入されます。タスクで起動するバージョンを定義できます。また、処理オプションとデータ選択の設定を求めるプロンプトの表示方法も制御できます。

### Windows

このカテゴリは、Microsoft Windows の実行可能ファイルに使用します。このタスクをユーザーが実行すると、Microsoft Windows プログラムが呼び出されます。このオプションを使用するには、実行可能ファイルとその作業ディレクトリ、およびプログラムに渡すコマンド行パラメータを定義します。

## フォルダ

このカテゴリは、タスク・ビューにグラフィック・プレースホルダーを作成する場合に使用します。たとえば、〈調達から支払まで〉の多数のバッチ・プログラムをツリー構造でグループ化できます。Procure to Pay Batch というフォルダを作成し、それを親タスクにして、その下にバッチ関連タスクをすべて配置できます。

## ソフトウェア以外

このカテゴリは、タスク・ビューにソフトウェア以外のタスクを表示する場合に使用します。たとえば、社内での討議を表すタスクや、アクティベータで特定の順序で発生させる必要のあるプロジェクトを表すタスクを表示できます。「チーム・メンバの決定」というソフトウェア以外のタスクを作成して親タスクとし、その下にチーム・タスクをすべて配置できます。

## アクティビティ・スクリプト

このカテゴリは、Solution Modeler に添付する HTML 対応ドキュメントを定義する場合に使用します。

## ユーザー定義コード

〈ユーザー定義コードの処理〉フォーム(W0004AA)にアクセスするタスクを、ユーザー定義コードとして定義します。このタスク・タイプに対して定義したパラメータ(システム・コードと UDC)がフォームに渡されるため、指定した UDC セットをユーザーが処理できます。

## 処理オプション

指定したプログラムの処理オプションを表示するタスクを、処理オプションとして定義します。プログラムのバージョンとフォームの表示モードも定義できます。

## AAI

このカテゴリは、AAI(自動仕訳)に影響する対話型 J.D. Edwards ソフトウェア・プログラムに使用します。このタイプのタスクは対話型タスク・タイプと同じですが、タスク・ビュー・メニューに表示されるアイコンが対話型タスク・タイプとは異なります。

## 固定情報

このカテゴリは、システムの定数値に影響する対話型 J.D. Edwards ソフトウェア・プログラムに使用します。このタイプのタスクは対話型タスク・タイプと同じですが、タスク・ビュー・メニューに表示されるアイコンが対話型タスク・タイプとは異なります。

## 自動採番

このカテゴリは、実行時に〈システム別自動採番の設定〉フォーム(W0002C)を表示するタスクを作成する場合に使用します。このタスク・タイプの場合は、影響するシステムのシステム・コードを指定する必要があります。

## 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・ビューの設定」
- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・ビューのロールとバリエーションの処理」
- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・リンクの処理」

## タスクの作成

---

タスク・ビューの各タスクは、Solution Explorer の柔軟性を高める再利用可能なオブジェクトです。各タスクはタスク・マスター(F9000)に格納されます。

Solution Explorer では、タスク・ビュー・メニューに新規タスクを挿入して新規タスクを直接作成できます。タスクを定義するには<タスクの改訂>フォームを使用します。タスクを作成すると、新しい子タスクとそのタスクを挿入する親タスクの間にリレーションシップが自動的に作成されます。

### はじめる前に

- プログラムなどのオブジェクトを起動するタスクを作成する場合は、そのオブジェクトがシステムに存在するかどうかを確認します。たとえば、新規レポートを設計し、タスク・ビューのタスクを介して処理できるようにします。レポートの起動タスクを作成する前に、まずレポートを設計してチェックインする必要があります。

### ▶ タスクを作成するには

---

1. タスク・ビューで、作成するタスクの親となるタスクを選択します。
2. 選択したタスクを右クリックし、メニューから[新規タスクの挿入]を選択します。
3. <タスクの改訂>で、次のフィールドに値を入力します。
  - タスク名
4. [共通]タブをクリックし、次のフィールドに値を入力します。
  - システム・コード
  - アクティベータ・タイプ  
このフィールドに入力するのは、このタスクをユニバーサル・ディレクタ・プロセスの一部として使用する場合があります。
  - クライアント・プラットフォーム  
作成するタスクを Windows クライアントと Web クライアントの両方で実行する場合は、空白にします。それ以外の場合は、“W”を入力して Web クライアントのみを指定するか、“C”を指定して Windows クライアントのみを指定します。
  - 国コード  
このタスクを国コードに関係なくユーザー全員に使用可能にする場合は、空白にします。それ以外の場合は国コードを入力します。この国コードをユーザーに割り当てないと、ユーザーはこのタスクにアクセスできません。

- 必須  
このフィールドに入力するのは、このタスクをユニバーサル・ディレクタ・プロセスの一部として使用する場合のみです。
  - アクティブ  
タスクを非アクティブ化すると、どのタスク・ビューでもユーザーが使用できなくなります。通常、新規タスクはアクティブにしておきます。
5. [実行可能]タブをクリックし、次のタスク・タイプ・オプションのうち 1 つを選択します。
- 対話型  
対話型 J.D. Edwards ソフトウェア・プログラムを起動するタスクの場合は、このオプションを有効化します。
  - バッチ  
J.D. Edwards ソフトウェアのバッチ・プログラムを起動するタスクの場合は、このオプションを有効化します。
  - Windows  
Windows ベースの実行可能ファイルを起動するタスクの場合は、このオプションを有効化します。
  - フォルダ  
タスク・ビューでアクティビティまたはソフトウェア以外のプレースホルダーとして使用するタスクの場合は、このオプションを有効化します。このタスクでは関数は実行されず、アクティビティを記述するドキュメントを添付できます。
  - ユーザー定義コード  
UDC テーブル修正プログラムを起動するタスクの場合は、このオプションを有効化します。
  - 処理オプション  
プログラムの処理オプションを表示するタスクの場合は、このオプションを有効化します。
  - AAI  
AAI プログラムを起動するタスクの場合は、このオプションを有効化します。
  - 固定情報  
固定情報修正プログラムを起動するタスクの場合は、このオプションを有効化します。

- 自動採番  
 <システム別自動採番の設定>フォームを起動する場合は、このオプションを有効化します。
- アクティビティ・スクリプト  
 モデラー・タスクに添付する HTML テキストとして使用するタスクの場合は、このオプションを有効化します。
- J.D. Edwards ワークフロー
- ソフトウェア以外  
 タスク・ビューでプレースホルダーとして使用するタスクの場合は、このオプションを有効化します。このタスクでは関数は実行されませんが、ツリー構造でタスクの編成に使用されます。

**注:**

多くのタスク・タイプ・オプションには、追加情報を入力する必要があります。たとえば、タスク・タイプに[対話形式]を選択した場合は、プログラムのオブジェクト名、バージョン、およびフォーム名を指定し、処理オプションがあれば設定します。ステップ 6~12 では、追加情報が必要とするタスク・タイプの必須フィールドを使用します。

6. [対話形式]、[AAI]、または[固定情報]オプションを有効化した場合は、次のフィールドに値を入力します。
- アプリケーション  
 プログラムのオブジェクト名を入力します。
  - バージョン  
 このフィールドに値を入力するのは、特定バージョンのプログラムを起動する場合のみです。バージョンを検索するには、ビジュアル・アシストをクリックします。
  - フォーム  
 これは任意フィールドです。プログラムで特定のフォームを開くには、フォーム ID を入力します。フォームを検索するには、ビジュアル・アシストをクリックします。
  - オプション・コード
  - フォーム・モード  
 このフィールドに入力するのは、このタスクをユニバーサル・ディレクタ・プロセスの一部として使用する場合のみです。
  - アプリケーション・タイプ

7. [バッチ]オプションを有効化した場合は、次の手順で操作します。
- a. 次のフィールドに値を入力します。
    - アプリケーション
    - バージョン  
これは任意フィールドです。特定バージョンのバッチ・プログラムを起動するには、そのバージョンを入力します。
  - b. 次のオプションのうち 1 つを選択します。
    - 処理オプションなし  
処理オプションなしのバッチ・プログラムを実行するには、このオプションを有効化します。
    - 非表示で実行  
処理オプションを表示せずにバッチ・プログラムを実行するには、このオプションを有効化します。
    - バージョン・リストの表示  
実行時にバッチ・プログラムのバージョンを確認するプロンプトを表示する場合は、このオプションを有効化します。
    - 処理オプションの表示  
実行時に処理オプション値の入力を求めるプロンプトを表示する場合は、このオプションを有効化します。
    - データ選択  
実行時にデータ選択の入力を求めるプロンプトを表示する場合は、このオプションを有効化します。
    - データ選択および処理オプション  
実行時にデータ選択と処理オプション値の入力を求めるプロンプトを表示する場合は、このオプションを有効化します。
8. [Windows]オプションを有効化した場合は、次のフィールドに値を入力します。
- Windows 実行可能ファイル  
実行可能ファイル名を入力します。
  - 作業ディレクトリ  
これは任意フィールドです。実行可能ファイルがあるディレクトリを入力します。
  - 実行可能パラメータ

これは任意フィールドです。起動時に実行可能ファイルに渡す入力コマンド、関数、またはパラメータを入力します。起動時にパラメータを受け入れない Windows 実行可能ファイルもあります。

9. [ユーザー定義コード]オプションを有効化した場合は、次のフィールドに値を入力します。
  - システム・コード
  - ユーザー定義コード
10. [処理オプション]オプションを有効化した場合は、次のフィールドに値を入力します。
  - アプリケーション
  - バージョン

これは任意フィールドです。

  - オプション ID
11. [自動採番]オプションを有効化した場合は、次のフィールドに値を入力します。
  - システム・コード
12. [J.D. Edwards ワークフロー]オプションを有効化した場合は、次のフィールドに値を入力します。
  - プロセス ID
13. [リソース]タブをクリックし、次のフィールドに値を入力します。
  - 基本リソース
  - 基本単位数
  - 計量単位
14. タスクにロールを適用するには、[フォーム]メニューから[ロール]を選択します。
15. <ロールの定義>で、タスクに適用するロールを選択し、[ロー]メニューから[状況変更]を選択します。

ロールがタスクに適用されたことを示すチェック・マークが表示されます。チェック・マークを削除するには、[ロー]メニューから[状況変更]を再選択します。すべてのロールをタスクに適用するには、[フォーム]メニューから[すべてを有効化]を選択します。
16. [閉じる]をクリックします。
17. <タスクの改訂>で[OK]をクリックします。

#### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「アクティベータ」

## フィールド記述

---

記述	用語解説
タスク名	タスクを識別する記述名。
アクティベータ・タイプ	タスクを分類するアクティベータ・タイプです。アクティベータ・タイプには、ビジネス・アクティベータ、テクニカル・アクティベータ、非アクティベータがあります。ビジネス・アクティベータを使用すると、毎日の作業で使用する処理を簡単に変更できます。たとえば、福利厚生構造に変更や追加を行うことができます。テクニカル・アクティベータを使用すると、ユーザーの追加、セキュリティの設定、ワークフローの変更などを行うことで、システム基本構成を管理および微調整することができます。
必須	タスクを必須としてマークすると、ユニバーサルディレクタ処理内、またはアクティベータとして使用される際に、そのタスクが実行されます。
アクティブ	タスクが「アクティブでない」とマークされている場合、タスクビューには表示されません。ラフカットの使用により、タスクが非アクティブになる場合があります。
バージョン	特定のデータ選択条件やアプリケーションの順序設定を識別します。アルファベットと数字を使って名称を設定できます。“XJDE”や“ZJDE”で始まるバージョンは J.D. EDWARDS が設定したものです。
フォーム	フォームを識別するための ID
オプション・コード	アプリケーションを実行する前に追加情報のプロンプトを表示するかどうか指定するコード。有効な値は次のとおりです。  0 処理オプションなし  1 非表示実行(プロンプトなし)  2 バージョン・リストの表示  3 処理オプションの表示
フォーム・モード	フォームモードは、対話型タイプのタスクで使用されます。フォームモードは、フォームをユニバーサルディレクターからどのように呼び出すか指定します。フォームを異なるモードで呼び出すと、同じフォームでもアクションに対して異なる動作を行います。
オプション ID	処理オプションのターゲットフィールド ID
基本リソース	タスクを実行する担当者
基本単位数	タスクを完了するのにかかる見積時間
計量単位	見積り単位が入力された計量単位を示します。

---

## タスクの処理

---

タスク・ビューの各タスクは、Solution Explorer の柔軟性を高める再利用可能なオブジェクトです。タスクを作成して該当するタスク・ビューに挿入できるだけでなく、主要なビジネス・プロセスを表すタスク・リレーションシップにタスクを組み込むこともできます。また、タスクを該当するタスク・リレーションシップにドラッグ&ドロップし、タスク・ビュー内で必要な場所に移動できます。必要に応じて、多数の各種タスク・リレーションシップでタスク・プロパティの改訂、処理オプションと対話型バージョンの設定、同じタスクの再利用を行うことができます。

各タスクはタスク・マスター(F9000)に保存されます。

### 既存のタスクの挿入

タスクを挿入するとタスク・リレーションシップが作成され、作成した親子関係がタスク・リレーションシップ・テーブル(F9001)に保管されます。また、タスクを挿入したタスク・ビューも保管されます。

タスクは再利用可能なオブジェクトなので、同じタスクを複数のタスク・ビューに挿入できます。

#### ▶ 既存のタスクを挿入するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、挿入するタスクの親となるタスクを選択します。
2. 親タスクを右クリックし、メニューから[既存のタスクの挿入]を選択します。  
〈タスク・リレーションシップの改訂〉フォームが表示されます。このフォームには、選択した親タスクの ID とすべての子タスクが表示されます。
3. 〈タスク・リレーションシップの改訂〉で、新しい行をクリックして次の必須フィールドに値を入力します。
  - 子タスク ID
  - 表示順序  
挿入するタスクを表示順序で最後以外の位置に表示する場合は、他のタスクの表示順序を変更します。たとえば、挿入するタスクが 8 番目の位置にあり、実際は 2 番目に表示する場合は、現在 2 番目にあるタスクの表示順序を 3 番目に、3 番目を 4 番目にと  
いうように順番に変更します。
4. このタスクをユニバーサル・ディレクタ・プロセスの一部として使用する場合は、次のフィールドに値を入力します。
  - 必須
  - アクティベータタイプ
  - 自動データ受渡し
  - 一時フォームモード

5. 次のうち必要なフィールドに値を入力します。

- アクティブ
- タスク・ビュー
- 単位一時変更
- 計量単位

6. [OK]をクリックします。

#### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・リンクの処理」

#### フィールド記述

記述	用語解説
表示順序	子タスクが表示される順序を決定する番号。
必須	タスクを必須としてマークすると、ユニバーサルディレクタ処理内、またはアクティベータとして使用される際に、そのタスクが実行されます。
タスク・ビュー	タスク・ビューを識別するコード。タスクはそれぞれ理由によって異なるビューに存在します。イベントの順序フロー、または機能フローを作成するために同じビューに存在する場合があります。タスク・ビューは必要に応じてカスタマイズできます。
アクティベータタイプ	タスクを分類するアクティベータ・タイプです。アクティベータ・タイプには、ビジネス・アクティベータ、テクニカル・アクティベータ、非アクティベータがあります。ビジネス・アクティベータを使用すると、毎日の作業で使用する処理を簡単に変更できます。たとえば、福利厚生構造に変更や追加を行うことができます。テクニカル・アクティベータを使用すると、ユーザーの追加、セキュリティの設定、ワークフローの変更などを行うことで、システム基本構成を管理および微調整することができます。
リソース一時変更	タスクがタスクリレーションシップで使用される場合、タスクを完了するのに必要なリソースは一時変更できます。
単位一時変更	タスクを完了するのに必要な見積数量は、タスク完了に必要な時間がプロセスフローで異なる場合、リレーションシップ内で一時変更されます。
計量単位	見積り単位が入力された計量単位を示します。
自動データ受渡し	このフラグはリレーションシップレベルで定義され、データがリレーションシップの別のタスクに自動的に渡されるかどうか指定します。

---

## 一時フォームモード

フォームモード一時変更は、対話型のタスクリレーションシップとともに使用されます。フォームモード一時変更は、フォームをユニバーサルディレクターからどのように呼び出すか指定します。フォームを異なるモードで呼び出すと、同じフォームでもアクションに対して異なる動作を行います。フォームモード一時変更により、タスクレベルで指定されたフォームモードを一時変更します。

---

## タスクのデフォルト処理オプションの設定

対話型、AAI、固定情報、またはバッチ・プログラムのタスクに処理オプションがある場合は、それを設定できます。設定時に値を入力しますが、ユーザーはタスクの起動時にその値を変更できます。

### ▶ タスクの処理オプションを設定するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、対話型、AAI、固定情報、またはバッチ・プログラムのタスクを選択します。
2. 選択したタスクを右クリックし、メニューから[プロンプト]、[バリエーションの管理]の順に選択します。  
  
そのタスクの処理オプション・フォームが起動します。プログラムに処理オプションがない場合は、[処理オプション]オプションが無効化されています。
3. タスクの処理オプションを入力して[OK]をクリックします。

## タスクのバージョンの設定

タスクで実行するオブジェクトのバージョンを選択できます。

### ▶ タスクのバージョンを設定するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、対話型、AAI、固定情報、またはバッチ・プログラムのタスクを選択します。
2. 選択したタスクを右クリックし、[プロンプト]、[バージョン]の順に選択します。  
  
〈バージョンの処理〉または〈バッチ・バージョンの処理〉フォームが表示されます。
3. 対話型バージョンまたはバッチ・バージョンを設定して[OK]をクリックします。

## タスクへのロールの適用

ロール・ベースのタスク・ビューで正しくフィルタされるように、各タスクにロールを適用します。各タスクに1つまたは複数のロールを適用できます。

ユーザーがロール・ベースのタスク・ビューを起動すると、そのログイン・ロールがビューに適用されます。システム管理者から他のロールを適用されているユーザーは、各自のロールをタスク・ビューに適用して異なるタスク・セットを表示できます。

たとえば、あるユーザーが2つのロール「一般会計担当者」(サインオン・ロール)と「買掛管理担当者」を適用されているとします。このユーザーがロール・ベースのタスク・ビューを起動すると、〈無効支払の自動調整〉、〈無効入金 of 自動残高調整〉、〈残高調整ファイルの再作成〉など、「一般会計担当者」ロールが適用されているタスクのみが表示されます。このユーザーは「買掛管理担当者」ロールをタスク・ビューに適用できます。これにより、〈スピード・リリース〉、〈支払グループの作成〉、〈支払の処理〉など、このロールが適用されているタスクのみが表示されます。

ユーザーがロールを切り替えることができるのは、Solution Explorer に\*ALL ロールでサインオンしている場合のみです。\*ALL ロールでサインオンしてロール・ベースのタスク・ビューにアクセスすると、\*ALL ロールに割り当てられているロールのいずれかで参照可能なタスクをすべて表示できます。

たとえば、\*ALL ロールに Role1 と Role2 が含まれていても、Role3 は含まれていないとします。この場合は、ユーザーがロール・ベースのタスク・ビューにアクセスすると、Solution Explorer では Role1 または Role2 で使用可能なタスクがすべて表示されます。Role3 しか使用できないタスクは表示されません。

#### ▶ タスクにロールを適用するには

---

1. Solution Explorer のロール・ベースのタスク・ビューで、ロールを適用するタスクを選択します。
2. タスクを右クリックして[タスクの改訂]を選択します。
3. 〈タスクの改訂〉で、[フォーム]メニューから[ロール]を選択します。
4. 〈タスクの使用場所〉で[検索]をクリックします。
5. ロールを適用するタスクの親を選択し、[選択]をクリックします。
6. 〈ロールの定義〉で、タスクに適用するロールを選択し、[ロー]メニューから[変更状況]を選択します。

ロールがタスクに適用されたことを示すチェック・マークが表示されます。チェック・マークを削除するには、[ロー]メニューから[変更状況]を再選択します。すべてのロールをタスクに適用するには、[フォーム]メニューから[すべてを使用]を選択します。

7. [閉じる]をクリックします。
8. 〈タスクの改訂〉で[OK]をクリックします。

---

#### 注:

ファイン・カットを使用し、特定のロールについてタスクをフィルタすることもできます。

---

#### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・ビューのロールとバリエーションの処理」
- 新規タスクの作成時にロールを適用する方法については『Solution Explorer』ガイドの「タスクの作成」
- ユーザーにロールを適用する方法については『システム・アドミニストレーション』ガイドの「ユーザー・ロールの設定」

## タスクの変更

このプロセスを使用してタスクを変更すると、Solution Explorer のタスクの全インスタンスに影響します。

### ▶ タスクを変更するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、変更するタスクを選択します。
2. 選択したタスクを右クリックし、ポップアップ・メニューから[タスクの改訂]を選択します。
3. 〈タスクの改訂〉で、タスクに必要な変更を行って[OK]をクリックします。

## Solution Modeler と J.D. Edwards ソフトウェア間でのタスク名とタスク状況の同期化

Solution Modeler で作成したタスク名が確実に Solution Explorer に表示され、該当する J.D. Edwards テーブルが更新されるように、タスク名を Solution Modeler から J.D. Edwards ソフトウェアにエクスポートします。このプロセスの実行には[名称の同期化]機能を使用します。

### Solution Modeler

Solution Modeler は、ビジネス、プロセス、およびワークフローの各モデルの視覚的表現を作成するための J.D. Edwards アプリケーションです。モデルの各ステップ、つまりタスクには、プロセスのその時点で特に関係の深いタスクを組み込むことができます。たとえば、モデルに「在庫管理への入力」というタスクを組み込み、このタスク内でタスクを在庫に入力するためのステップをリストできます。

Solution Modeler は J.D. Edwards ソフトウェアと全面的に統合されています。モデルに組み込んだタスクごとに対応するアプリケーションを起動するモデルを作成して管理し、モデルが表示アプリケーションで作業できます。たとえば、モデルに〈受注オーダー入力〉タスクが含まれている場合は、そのタスクを J.D. Edwards ソフトウェアの〈受注オーダー入力〉アプリケーションにリンクすると、〈受注オーダー入力〉を Solution Modeler から起動できます。アプリケーションで必須タスクを実行した後、Solution Modeler に戻ってモデルの次のタスクを表示できます。

Solution Modeler には、事前構成済みの数百個のプロセス・モデルが組み込まれています。J.D. Edwards ソフトウェア・アプリケーションにリンクされている各タスクは、タスク・マスター(F9000)に表示されます。したがって、Solution Modeler の[プロパティのコンテキスト]メニュー・オプションを使用して、あるタスクのプロパティを変更すると、J.D. Edwards テーブルを更新しなくても、タスク情報が次回にデータベースから取り込まれると、変更結果が Solution Explorer に表示されます。モデルにタスクを追加してタスク・ビューに表示する場合は、そのタスクにリレーションシップを割り当てる必要があります。リレーションシップとは、タスク・ビューにおける位置です。ロール・ベースのタスク・ビューにタスクを割り当てる場合は、1 つまたは複数のロールを割り当てることができます。そのロール・ベースのタスク・ビューにあるタスクを表示できるのは、対応するロールを持つユーザーのみです。ただし、[プロパティのコンテキスト]メニュー・オプションを使用せずに Solution Modeler でのタスク名を変更すると、タスク・マスター(F9000)では変更内容が自動的に更新されません。J.D. Edwards データベースを Solution Modeler 内のデータで確実に更新させるには、Solution Explorer の[名称の同期化]機能を使用します。

## タスク名の同期化

Solution Explorer で[名称の同期化]機能を使用すると、J.D. Edwards タスクに関連付けられているタスク ID とタスク名のリストが、Solution Modeler から取り込まれます。Solution Explorer では J.D. Edwards データベースのタスク・マスター(F9000)が更新され、次回にデータベースからタスク情報を取り込むときには更新後のタスク名が表示されます。J.D. Edwards ソフトウェアにログインするか、タスク・ビューを変更すると、情報がデータベースから取り込まれます。

### ▶ タスク名を同期化するには

---

[ツール]メニューから[Solution Modeler]、[名称の同期化]を順に選択します。

## Solution Modeler と J.D. Edwards ソフトウェア間でのタスク状況の同期化

タスク状況を同期化すると、Solution Explorer では J.D. Edwards ソフトウェアのタスクに関連付けられているタスク ID とタスク構造が Solution Modeler から取り込まれます。タスクを同期化すると、J.D. Edwards ソフトウェアではタスク・マスター(F9000)内でタスクのアクティブまたは非アクティブ・オプションが更新されます。タスクのアクティブまたは非アクティブ・オプションにより、そのタスクをタスク・ビューに表示できるかどうかは確定されます。非アクティブに設定されているタスクは、タスク・ビューに表示されません。アクティブに設定されているタスクは、そのタスク・リレーションシップが定義されていてファイン・カットなどのメカニズムで除外されていないタスク・ビューに表示されます。ロール・ベースのタスク・ビューの場合、Solution Explorer に表示されるタスクは、ユーザーに割り当てられているロールと、そのタスクに割り当てられているロールに応じて異なります。

### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスク・ビューの設定」

### ▶ タスク状況を同期化するには

---

[ツール]メニューから[Solution Modeler]、[タスクの同期化]を順に選択します。

## タスクの削除

タスク・ビュー・メニューからタスクのインスタンスを削除できます。ただし、この処理を実行してもタスク自体は削除されず、単にリレーションシップから除外されます。システムからタスクを削除するには、〈タスクの処理〉プログラム(P9000)を使用してタスクを検索し、タスク・マスター(F9000)から削除する必要があります。

### タスクのインスタンスの削除

Solution Explorer のタスク・ビューで、タスクをリレーションシップから削除できます。この場合、タスクはタスク・ビューから削除されるだけで、タスク・マスター(F9000)やそのタスクが挿入されていた他のリレーションシップには残っています。また、そのタスクを引き続き他のタスク・メニューに挿入できます。

### ▶ タスクのインスタンスを削除するには

---

1. Solution Explorer で、削除するタスク・リレーションシップを含むタスク・ビューを開きます。
2. 削除するタスクを右クリックし、メニューから[リレーションシップの削除]を選択します。
3. <リレーションシップの削除>で[OK]をクリックします。

### タスク・マスター(F9000)からのタスクの削除

タスクをシステムから完全に削除するには、タスク・マスター(F9000)から削除する必要があります。ただし、最初に、そのタスクのリレーションシップをすべて削除します。これは、タスクをそれが表示される各タスク・ビュー・メニューから削除する操作と同じです。

### ▶ タスクをタスク・マスター(F9000)から削除するには

---

1. Solution Explorer で、[ツール]メニューから[タスクの処理]を選択します。
2. [検索]をクリックします。  
検索対象を絞り込むには QBE を使用してください。
3. 削除するタスクを選択し、[ロー]メニューから[使用場所]を選択します。
4. <タスクの使用場所>で、[検索]をクリックして現行タスクの親を検索します。  
1 つのタスクが複数の親を持つ場合があります。その場合は、すべての親が表示されます。
5. 削除するタスクの親を選択して[選択]をクリックします。
6. <タスク・リレーションシップの改訂>で、削除するタスクを選択して[削除]をクリックします。
7. <削除の確認>で[OK]をクリックします。
8. [OK]をクリックします。
9. リストに表示された親タスクごとにステップ 5~8 を繰り返します。
10. <タスクの使用場所>で[閉じる]をクリックします。
11. <タスクの処理>で、削除するタスクを選択して[削除]をクリックします。
12. <削除の確認>で[OK]をクリックします。

## オブジェクト管理ワークベンチの Solution Explorer タスクおよびタスク・リレーションシップの変更の検索

Solution Explorer でタスクまたはタスク・リレーションシップを変更すると、変更ログが<オブジェクト管理ワークベンチ>(OMW)に記録されます。タスクやタスク・リレーションシップを追加または削除した場合は、その情報が OMW に保管されます。このため、その操作を実行したユーザーや他のユーザーは、変更があったタスクやタスク・リレーションシップを簡単に検索できます。<タスクの処理>プログラム(P9000)でタスクのプロパティを変更した場合は、そのタスクのログが OMW に記録されます。

---

**注:**

変更ログを OMW に記録するには、システム管理者はユーザーID の〈セキュリティ・ワークベンチ〉プログラム(P00950)で OMW のログを有効化する必要があります。

---

**参照**

- 〈オブジェクト管理ワークベンチ〉については、『オブジェクト管理ワークベンチ』ガイドの「セキュリティ・ワークベンチの処理」

---

## タスク・リンクの処理

---

タスク・リンクは、別のタスクへのショートカットです。リンク先のタスクは Solution Explorer の代替ウィンドウに表示されるので、リンク元もそのまま表示しておくことができます。一般的に、リンクは子(ノード)を持つタスクに設定します。ノードにリンクすると、その子がすべて新規ウィンドウに表示されます。

タスク・ビュー・ノード自体を除き、タスク・ビューに表示されるタスクであれば、どれにでもリンクできます。必要に応じて、タスク・ビューのバリエーションにもリンクできます。タスク・リンクを作成するには、タスク・リレーションシップを改訂します。タスク・ビュー・ノードにはリンクできません。

リンクの作成時には、そのリンクで 2 つのメンバを識別する必要があります。つまり、リンク元タスクとリンク先タスクです。リンク元タスクをリンク・タスクと呼びます。リンク・タスクには、リンク・インジケータが表示されます。リンク先タスクはリンク・ターゲットと呼ばれ、セカンダリ・ウィンドウに表示されます。

タスク・ビューをビジネス・プロセスの一部としてリンクする場合は、バリエーションへのリンクを作成できます。あるタスクから他のタスクにリンクするユーザーが、タスク・リレーションシップのバリエーションを必要とするかどうかを判断してください。

リンクを削除するには、タスク・リレーションシップを改訂します。

---

**▶ タスクへのリンクを作成するには**

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、リンク・タスクにするタスクの親を選択します。
2. 選択したタスクを右クリックして[タスク・リレーションシップ]を選択します。
3. 〈タスク・リレーションシップの改訂〉で[検索]をクリックします。
4. タスク・リストで、リンク・タスクとして設定するタスクをクリックし、[ロー]メニューから[リンク先]を選択します。
5. 〈リンク先〉で[リレーションシップの検索]ボタンをクリックします。
6. 〈リレーションシップの検索〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - タスク・ビュー
  - 親タスク ID  
リンク・ターゲットとして設定するタスクの親のタスク ID を入力します。

〈リレーションシップの検索〉フォームに、検索した親の子タスクがすべて表示されます。

7. リンク・ターゲットとして設定するタスクを選択し、[選択]をクリックします。

リンク・ターゲットは、ユーザーがリンクをクリックするとセカンダリ・ウィンドウに表示されるタスクです。このフォームで指定した情報が〈リンク先〉フォームの必須フィールドに入力されます。

8. 〈リンク先〉で[OK]をクリックします。

9. 〈タスク・リレーションシップの改訂〉で[OK]をクリックします。

リンク・タスクは、タスク・ビューに赤い矢印付きで表示されます。赤い矢印は別のタスクにリンクすることを示します。

### はじめる前に

- タスク・リンクの子のバリエントを適用します。

### ▶ バリエントのタスク・ビュー・メニューへのリンクを作成するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、リンク・タスクにするタスクの親を選択します。
2. 選択したタスクを右クリックして[タスク・リレーションシップ]を選択します。
3. 〈タスク・リレーションシップの改訂〉で[検索]をクリックします。
4. タスク・リストで、リンク・タスクとして設定するタスクを選択し、[ロー]メニューから[リンク先]を選択します。
5. 〈リンク先〉で[リレーションシップの検索]ボタンをクリックします。
6. 〈リレーションシップの検索〉フォームで、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- タスク・ビュー

- 親タスク ID

リンク・ターゲットとして設定するタスクの親のタスク ID を入力します。

〈リレーションシップの検索〉フォームに、検索した親の子タスクがすべて表示されます。

7. リンク・ターゲットとして設定するタスクを選択し、[選択]をクリックします。

このタスクは、ユーザーがリンクを呼び出したときにセカンダリ・ウィンドウに表示されるバリエント・タスク・ビューのベースとなります。このフォームで指定した情報が〈リンク先〉フォームの必須フィールドに入力されます。

8. 〈リンク先〉で、次のフィールドにバリエント ID を入力します。

- バリエントへのリンク

ユーザーがリンクをアクティブ化すると、このフィールドで指定したバリエント・タスク・ビューがセカンダリ・ウィンドウに表示されます。[バリエントへのリンク]コントロールのビジュアル・アシストを使用すると、リンク先にするバリエントを検索できます。

9. [OK]をクリックします。

10. 〈タスク・リレーションシップの改訂〉で[OK]をクリックします。

リンク・タスクは、タスク・ビューに赤い矢印付きで表示されます。赤い矢印は別のタスクにリンクすることを示します。

#### ▶ リンクを削除するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで削除するリンクを含むタスクの親を選択します。
2. 選択したタスクを右クリックし、メニューから[タスク・リレーションシップ]を選択します。
3. 〈タスク・リレーションシップの改訂〉で、削除するリンクを含むタスクを選択し、[ロー]メニューから[削除するリンク先]を選択します。

4. [OK]をクリックします。

リンクが削除されます。

## タスクの文書化

---

タスク・ドキュメンテーションを使用すると、新規のシステム・ユーザーはタスクの目的、その完了に必要なステップ、タスク開始前に知っておくべき情報を確認できます。また、他のユーザーがビジネス・プロセスを明確化する注記を作成し、請求書など、タスクの完了によって作成される他の文書へのリンクを設定できます。

多くの J.D. Edwards タスクは、Solution Explorer をインストールした時点ですでに文書化されています。ただし、Solution Explorer のツールバーと Microsoft Word などの HTML 編集ツールを使用して、ドキュメンテーションを編集できます。また、編集ツールを使用して独自のドキュメンテーションを記述することもできます。

### 警告

J.D. Edwards 提供のドキュメンテーションに対して行った修正内容は、システムを更新すると失われます。ただし、独自に作成したドキュメンテーションはそのまま残ります。

---

Solution Explorer のタスク・ビューにはドキュメンテーション・ウィンドウがあり、タスク・ドキュメンテーションが HTML 形式で表示されます。Solution Explorer に関するドキュメンテーションの各部を分類する場合は、サマリー、詳細、はじめる前に、注、成果物、カスタムなど、いくつかの指示タイプの 1 つとして定義します。これらの指示タイプは、ドキュメンテーション・ウィンドウに表示されるタブ名に対応します。たとえば、2 つのドキュメンテーションを作成し、一方はサマリー、他方は詳細として定義できます。これにより、そのタスクのドキュメンテーションをユーザーが検討する際には、ドキュメンテーション・ウィンドウに[集計]および[詳細]の 2 つのタブが表示されます。ドキュメンテーション・ワークステーションは、Solution Explorer とユニバーサル・ディレクトリの両方で使用できます。

## タスク・ドキュメンテーションの優先順位

ここでは、タスク・ドキュメンテーション・ウィンドウに表示される情報がシステムでどのように確定されるかについて説明します。タスクごとに、システム内のすべてのドキュメンテーション・カテゴリに対して次のステップが実行されます。

1. 現行のタスクにドキュメンテーションが関連付けられているかどうかを判別されます。この種のドキュメンテーションが存在する場合は、それが表示されます。存在しない場合は、次のステップに進みます。
2. タスク・レベルに使用可能なドキュメンテーションがなければ、タスク・ビューに関連付けられているドキュメンテーションの有無が判別されます。タスク・ビュー・ドキュメンテーションは、実際にはタスク・ビュー・ノード(タスク・ビューの最上部にある最初のタスク)に関連付けられています。この種のドキュメンテーションが存在する場合は、それが表示されます。存在しない場合は、次のステップに進みます。
3. タスク・レベルまたはタスク・ビュー・レベルに使用可能なドキュメンテーションがなければ、ドキュメンテーション・ディレクトリのルートでグローバル・ドキュメンテーションの有無が判別されます。このドキュメンテーションが存在する場合は、それがドキュメンテーション・ウィンドウに表示されます。存在しなければ、そのカテゴリのタブは表示されません。

グローバル・ドキュメンテーションは作成したり編集できますが、その操作は Solution Explorer の外部で行う必要があります。各カテゴリではグローバル・テキストに異なるファイルが使用されることに注意してください。たとえば、詳細カテゴリと継続作業カテゴリの両方に対してグローバル・ドキュメンテーションを作成するには、detail.htm および consequence.htm という2つのファイルを作成します。

親タスクに関連付けられているドキュメンテーションは、検索処理で検索されません。たとえばタスク・ビューでは、親タスクに子タスクが含まれている場合があります。親タスクにドキュメンテーションが関連付けられていても、子タスクにドキュメンテーションがなければ、タスク・ビューに関連付けられているドキュメンテーションは表示されますが、親タスクに関連付けられているドキュメンテーションは表示されません。

## ドキュメンテーションの処理

Solution Explorer のタスク・ビューでは、任意のタスクについて各種のドキュメンテーションを記述できます。ドキュメンテーションでは、タスクの一般情報、その完了までの特定のステップ、タスクを開始する前に実行するステップの説明、または特定のタスクに合わせてカスタマイズした情報を提供できます。

Solution Explorer の[ビュー]メニューから[表示]、[タスク・ドキュメンテーション]の順に選択すると、タスク・ビューでタスクを選択するたびに、ドキュメンテーション・ウィンドウにドキュメンテーションが表示されます。ドキュメンテーション・ウィンドウに表示されるタスクは、タスクに関して存在するドキュメンテーション指示タイプを表します。タスクにドキュメンテーションを関連付けていない場合は、タスクごとに Web サイトまたは HTML メッセージを表示できます。

ドキュメンテーションを作成するには、ドキュメンテーション・ウィンドウのツールバーで[編集]ボタンの矢印をクリックし、提供するドキュメンテーションのタイプを選択します。

すでに記述したドキュメンテーションを改訂できます。ドキュメンテーションを改訂するには、ドキュメンテーション・ウィンドウで[編集]ボタンをクリックし、ドキュメンテーションを開き、変更してから保存します。

## はじめる前に

- Solution Explorer で、[ビュー]メニューから[表示]、[タスク・ドキュメンテーション]の順に選択します。タスク・ドキュメンテーション・ウィンドウが表示されます。

### ▶ タスク・ドキュメンテーションを作成するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、タスクまたはタスク・ビューを選択します。  
ドキュメンテーション・ウィンドウにドキュメンテーションが表示されます。
2. ドキュメンテーション・ウィンドウのドキュメンテーション・ペインで、[編集]ボタンの矢印をクリックします。
3. ドロップダウン・メニューから指示タイプを選択します。  
〈Solution Explorer ドキュメンテーション〉フォームが表示されます。

このフォームには、選択した指示タイプを参照するファイル名と、記述するドキュメンテーション・ファイルへのフル・パスが表示されます。

4. [はい]を選択して、次の操作に進みます。  
Microsoft Windows など、システムで使用している編集ツールが起動されます。
5. その編集ツールを使用してドキュメンテーションを記述します。
6. 記述したドキュメンテーションを保存して閉じます。  
作成したドキュメンテーションの指示タイプを表すタブが作成されます。新規ドキュメンテーションは、[リフレッシュ]をクリックしないと表示されない場合があります。

## はじめる前に

- Solution Explorer で、[ビュー]メニューから[表示]、[タスク・ドキュメンテーション]の順に選択します。タスク・ドキュメンテーション・ウィンドウが表示されます。

### ▶ ドキュメンテーションを改訂するには

---

1. Solution Explorer のタスク・ビューで、改訂するドキュメンテーションを含むタスクを選択します。  
ドキュメンテーション・ウィンドウにドキュメンテーションが表示されます。
2. [集計]など、前に作成しておいたドキュメンテーションのタイプを表すタブをクリックします。
3. [編集]をクリックします。  
ドキュメンテーションの作成に使用した編集ツールが起動され、作成した HTML ファイルが取り込まれます。
4. 既存のドキュメンテーションを編集します。

HTML エディタとして Microsoft Word を使用している場合、最初はドキュメンテーションが空に見えることがあります。Microsoft Word のツールバーで[表示]をクリックして[HTML ソース]を選択します。これで HTML ドキュメントを編集できるようになります。

---

**注:**

ドキュメントの[特殊取扱]パラメータがブランクの場合は、そのファイルを編集できません。鉛筆ボタンをクリックすると、〈Solution Explorer ドキュメンテーション〉フォームに、そのファイルを編集できないことを示すメッセージが表示されます。

---

5. 記述したドキュメンテーションを保存して閉じます。

新規ドキュメンテーションは、[リフレッシュ]をクリックしないと表示されない場合があります。

## ドキュメンテーション・カテゴリの追加

指示タイプは、システム内のタスク・ドキュメンテーションのカテゴリを指します。たとえば[集計]は、タスクの概要と定義を提供する指示タイプです。UDC テーブル(H90/IN)にタイプを追加すると、システム用の指示タイプを作成できます。この UDC テーブルには、指示タイプとそれに関する情報が保管されます。各ドキュメンテーション・タイプは、ドキュメンテーション・ウィンドウの固有のタブで識別されます。

指示タイプを追加するときに、[特殊取扱コード]フィールドを使用して、ユーザーにドキュメンテーション・ファイルの編集を許可するかどうかを指定できます。これには次の 3 つの方法があります。

- “E”を入力します。この値は、指示タイプが Solution Explorer に表示されることと、編集可能であることを示します。
- “N”を入力します。この値は、指示タイプが Solution Explorer に表示されないことを示します。
- ブランクにします。この値は、指示タイプが Solution Explorer に表示されますが、編集禁止であることを示します。

---

## アクティベータ

一連のタスクの処理プロセスを簡単にしてエンドユーザーの操作時間を短縮するために、Solution Explorer にはタスクをグループ化する機能が用意されています。タスク・グループはアクティベータと呼ばれます。タスク・グループは、ユニバーサル・ディレクタというツールでユーザーに表示されます。ユニバーサル・ディレクタを使用すると、各タスクが完了するたびに[次へ]ボタンをクリックし、各タスクを順番に処理できます。たとえば、会計四半期の締め処理に必要なステップを含むアクティベータを作成できます。

---

## アクティベータの理解

アクティベータは、ビジネスに不可欠なプロセスの実行に必要な一連のタスクに順序を設定したものです。

アクティベータを起動できるタスクは常に親タスクであり、アクティベータ・フラグで指定されています。一般的に、起動側タスクはソフトウェア以外のタスクで、そこに残りのアクティベータ・タスクがあります。アクティベータを作成すると、それを実行するユーザーはユニバーサル・ディレクタを起動します。ユニバーサル・ディレクタは、自己完結型の領域を提供する機能で、その領域でリレーションシップに含まれるタスクすべてを処理します。ユニバーサル・ディレクタを使用してアクティベータ・タスクとタスク・リレーションシップを実行する間に、システムではデータ・マッピングを使用してタスク・リレーションシップに含まれるタスク間でデータがやりとりされます。ユニバーサル・ディレクタに表示される指示に従って、プロセスが完了するまで各ステップを実行します。

アクティベータに変更を加えるには、Solution Explorer のタスク・ビューを使用します。タスク・リレーションシップに対する変更は、ユーザーがユニバーサル・ディレクタを実行すると自動的に表示されます。

## アクティベータ・フラグ

アクティベータ・フラグは、あるタスクを、残りのアクティベータ・タスクを含む親タスクとして指定します。アクティベータ・フラグを有効化するには、〈タスクの処理〉プログラム(P9000)の〈タスクの改訂〉フォームで、アクティベータ・タイプを入力します。アクティベータ・フラグが有効化されている場合は、タスク・ビューでタスク名の横に電球アイコンが表示されます。

アクティベータをダブルクリックすると、ユニバーサル・ディレクタが起動します。ユニバーサル・ディレクタには、プロセスの各タスクが順番に表示されます。ユーザーはユニバーサル・ディレクタを使用して、アクティベータに関連付けられているビジネス・プロセスの完了に必要な対話型またはバッチ・プログラムを処理できます。

タスクの順序は、広い意味ではタスク・リレーションシップを構成します。リンクしたタスクは、相互に密接に関連しています。ただし、親タスクをアクティベータとして指定し、ユニバーサル・ディレクタを起動すると、タスクは1つの一様なビューに表示されます。フォーム間でデータがやりとりされる際には、ハード・コード化されたフォーム・インターコネクトは使用されません。アクティベータがキーとなっているビジネス・プロセスを変更するには、Solution Explorer のタスク・ビューでタスク・リレーションシップを変更します。

また、設定するアクティベータのタイプも指定できます。アクティベータ・タイプには、ビジネス・アクティベータとテクニカル・アクティベータがあります。アクティベータ・タイプは、その動作には影響しませんが、タイプを指定するとアクティベータを簡単に検索できます。

開発資源を消費せずに変更内容をシステムに迅速に導入するには、ビジネス・アクティベータを使用します。タスクをビジネス・アクティベータとして指定するのは、そのタスクがシステムの重要なプロセスの一部となっている場合です。たとえば、〈新規企業の買収〉などのタスクは、ビジネス・アクティベータとなります。このタスクは、一連の関連タスクをリンクするプロセスをトリガーします。目標を達成するためには、各関連タスクを指定の順序で実行することになります。その他にも、倉庫の追加やカスタマイズされたレポートおよび請求書の作成なども、ビジネス・アクティベータです。

タスクをテクニカル・アクティベータとして指定するのは、そのタスクがシステム・インフラストラクチャの管理およびメンテナンスの一部となっている場合です。テクニカル・アクティベータにより、許可、システム管理、およびコンポーネントのインターフェイスなどの分野でシステム管理作業が簡素化されます。たとえば、この種のアクティベータを使用すると、IT 担当者はパッケージ・インストール・プロセスを実装およびメンテナンスできます。テクニカル・アクティベータによりこれらのプロセスが自動化され、技術担当者はシステムに確実に最大限のパフォーマンスを発揮させることができます。

## ユニバーサル・ディレクタ

アクティベータを使用すると、タスク・リレーションシップを作成して、イベント・ルールやワークフロー・プロセスに埋め込むコードを記述しなくてもフォーム間でデータをやりとりできます。ユニバーサル・ディレクタでは小さい領域が作成され、そこでユーザーは処理プロセスに含まれるタスクを表示して処理します。ユニバーサル・ディレクタには、アクティベータとそれに関連付けられている全タスクが、Solution Explorer で指定した順序で表示されます。

ユニバーサル・ディレクタを使用すると、タスク順序を前後に移動して、その順序での位置を明確に表示できます。ビューでタスク順序を前後に移動するには、ディレクタ・バーを使用します。

ユニバーサル・ディレクタの処理中には、ドキュメンテーション・ビューも表示できます。ユニバーサル・ディレクタ・ビューには、処理している特定のタスクに対応するドキュメンテーションが表示されません。Solution Explorer の場合と同様に、ユニバーサル・ディレクタでも処理中にドキュメンテーションを操作したり編集できます。

Solution Explorer タスク・ビューに存在するアクティベータの親子タスク・リレーションシップについては、ユニバーサル・ディレクタに別のビューが表示されます。ただし、そのリレーションシップに含まれるタスクを実行できるように、インターフェイスも用意されています。

## データ・マッピング

ユニバーサル・ディレクタにはデータ・マッピングが用意されており、それに基づいて順序に含まれるタスクの処理中にフォーム間でデータがやりとりされます。このデータ・マッピング・メカニズムにより、フォーム・インターコネクトをハードコード化しなくても、フォーム間でデータを論理的にやりとりできます。

データ・マッピング中には、あるフォームで値を含むヘッダー・コントロールまたはグリッド・カラムに、次のフォームと一致するヘッダー・コントロールやグリッド・カラムがあるかどうかを検証されます。一致するものが存在する場合は、値が渡されます。一致するものが存在しなければ、データ・マッピングは失敗し、エラー・メッセージが生成されます。データ・マッピングをアクティブ化するには、〈タスクの処理〉プログラム(P9000)で、タスク・リレーションシップに含まれる他のタスクにデータを渡すタスクごとに、[自動データ受渡し]グリッド・カラムに“Y”を入力します。

## アクティベータの作成

---

アクティベータを作成するには、最初に親タスクを作成し、起動タスクとして指定してから、そのタスクのアクティベータ・フラグを有効化する必要があります。起動タスクとは、キーとなるビジネス・アクティベータまたはテクニカル・アクティベータを構成するリレーションシップの親タスクです。一般的に、起動タスクはソフトウェア以外のタスクです。この種のタスクの作成方法は、他のタスクと同じです。アクティベータとして指定したタスクは、タスク・ビューに電球アイコンと共に表示されます。

起動タスクの作成後は、その下にプロセスの完了に必要な子タスクをいくつでも配置できます。起動タスクを選択して[実行]ボタンをクリックすると、ユニバーサル・ディレクタが起動します。ユニバーサル・ディレクタでは、順序全体を最初から最後までステップ実行し、プロセスの完了に必要なプログラムを処理できます。

### ▶ アクティベータを作成するには

---

1. Solution Explorer タスク・ビューで、ソフトウェア以外のタスクを作成または選択します。  
タスクを選択する場合は、そのタスクを右クリックして[タスクの改訂]を選択します。
2. <タスクの改訂>で、[共通]、[実行可能]、および[リソース]の各タブの必須フィールドに値を入力し、オプションを選択します。[アクティベータ・タイプ]フィールドに“1”または“2”を入力していることを確認して[OK]をクリックします。  
タスク・アイコンに、そのタスクがアクティベータの起動ポイントであることを示す電球アイコンが表示されます。
3. アクティベータの作成を完了するには、トランザクションの完了までに必要な数のタスクを正しい順序で挿入します。  
アクティベータにタスクを挿入するには、タスクを作成する方法と、別のタスク・ビューから目的のタスク・ビューに送って正しい位置にドラッグ&ドロップする方法があります。

### 参照

- 『Solution Explorer』ガイドの「タスクの作成」

### 例:アクティベータの作成

この例では、システムに新規ユーザーを追加するためのアクティベータを作成します。プロセスの完了後にアクティベータを起動できます。その後は、ユニバーサル・ディレクタによりステップ完了プロセスが自動化されます。

4. プロセスの完了に必要なステップを確定します。  
通常は、ユーザーが実行する必要のあるプログラムと、各プログラムの実行順序を決定する必要があります。

次のリストは、ユーザーが実行する必要があるステップと、各ステップの完了に必要なプログラムを示します。

ユーザー・プロファイルの追加	〈ユーザー・プロファイルの改訂〉(P0092)
ユーザー・プロファイル環境の追加	〈ユーザー・プロファイルの改訂〉(P0092)
ユーザー・プロファイル・セキュリティの追加	〈OneWorld セキュリティ〉(P98OWSEC)
ユーザー・ロー・セキュリティの追加	〈セキュリティ・ワークベンチ〉(P00950)
ユーザー・アクション・セキュリティの追加	〈セキュリティ・ワークベンチ〉(P00950)
ユーザー・マシンの追加	〈デプロイメント・ロケーションの適用〉(P9654A)

上記の各ステップは、後でプロセスに含まれる固有のタスクの基礎となります。タスク名はプログラム名とは異なります。プログラム名をタスク名として使用することもできますが、使用するプログラムを指定するのではなく実行するアクションを記述する方が、ユーザーにとってはプロセスの内容が明確になります。この例では、すべてのプログラムが J.D. Edwards ソフトウェア・プログラムです。

プログラムによっては、複数のステップが適用されているものがあります。

#### 5. 親タスクを作成します。

このタスクは、後で使用する起動タスクです。親タスクはプレースホルダー、つまりソフトウェア以外のタスクにする必要があります。タスクの作成時に、〈タスクの改訂〉フォームの各フィールドに次のように値を入力します。ここに示されていないフィールドは空白にしてください。

- [タスク ID]: "H95\_ADD NEW USER"
- [タスク名]: "新規ユーザーの追加"
- [共通]タブのフィールド:
  - システム・コード: H95
  - [アクティベータ・タイプ]: 1
  - [アクティブ]: (有効化)
- [実行可能]タブのフィールド: [非ソフトウェア]オプションを有効化

[アクティベータ・タイプ]は必須フィールドです。値を入力しないと、そのタスクは起動タスクとしてマークされず、ユーザーはユニバーサル・ディレクタで子タスクを自動化できません。

#### 6. [新規ユーザーの追加]タスクの最初の子として[ユーザー・プロファイルの追加]タスクを追加します。タスクの作成時に、〈タスクの改訂〉フォームの各フィールドに次のように値を入力します。ここに示されていないフィールドは空白にしてください。

- [タスク ID]: "H95\_ADD USER PROFILE"
- [タスク名]: "ユーザー・プロファイルの追加"

- [共通]タブのフィールド:
    - システム・コード: H95
    - [アクティブ]: (有効化)
  - [実行可能]タブのフィールド:
    - [対話形式]オプションを有効化
    - アプリケーション: P0092
    - バージョン: ZJDE0001
    - [フォーム]: "W0092A"
    - オプション・コード: 1
7. 残りの各タスクを、[ユーザー・プロファイルの追加]の後に[新規ユーザーの追加]の子として順番に追加します。

この例では、このプロセスのタスクをすべて作成します。ただし、プロセスに既存のタスクを挿入することもできます。また、タスクをタスク・ビューに送って正しい位置にドラッグ&ドロップする方法もあります。

各タスクの設定方法は、最後の2つのタスクの場合と同じです。〈タスクの改訂〉フォームの[実行可能]タブで次のパラメータを使用します。

- [ユーザー・プロファイル環境の追加]:
  - アプリケーション: P0092
  - バージョン: ZJDE0001
  - [フォーム]: "W0092C"
  - オプション・コード: 1
- [ユーザー・プロファイル・セキュリティの追加]:
  - アプリケーション: "P98OWSEC"
  - バージョン: ZJDE0001
  - [フォーム]: "W98OWSECF"
  - オプション・コード: 1
- [ユーザー・ロー・セキュリティの追加]:
  - アプリケーション: P00950
  - バージョン: ZJDE0001
  - [フォーム]: "W00950F"
  - オプション・コード: 1
- [ユーザー・アクション・セキュリティの追加]:
  - アプリケーション: "P00950"
  - バージョン: ZJDE0001
  - [フォーム]: "W00950M"
  - オプション・コード: 1

- [ユーザー・マシンの追加]:
  - アプリケーション: "P9654A"
  - [フォーム]: "W9654AB"
- 8. このプロセスをテストするには、[新規ユーザーの追加]アクティベータをクリックし、ツールバーの[Idea to Action]ボタンをクリックします。

ユニバーサル・ディレクタの左のツリーに表示される各ステップは、プロセスを作成するために追加した各タスクを表します。

## スタンドアロンの略式コマンド

---

J.D. Edwards ソフトウェアの[略式コマンド]は、プログラム、ユーザー定義コード、タスク ID、メニューなどの起動に使用できる検索フィールドです。[略式コマンド]にアクセスできるかどうかは、システム管理から割り当てられたシステム許可によって確定されます。

[略式コマンド]は Solution Explorer に表示されます。ただし、[略式コマンド]を Solution Explorer から独立して起動することもできます。このスタンドアロン・バージョンの[略式コマンド]を使用すると、Solution Explorer が完全にロードするまで待たずにプログラムをすばやく起動できます。[略式コマンド]でプログラムを起動する必要はあっても、Solution Explorer のナビゲーションや他の機能を必要としないユーザーには、この機能が特に役立ちます。

スタンドアロンの[略式コマンド]を使用するには、J.D. Edwards をインストールし、システムにサインオンする必要があります。サインオンしていない場合は、スタンドアロンの[略式コマンド]実行可能プログラムの起動時に、サインオンを求めるプロンプトが表示されます。

### ▶ スタンドアロンの略式コマンドにアクセスするには

---

1. J.D. Edwards ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。
2. System ディレクトリをクリックし、bin32 ディレクトリをクリックします。
3. FastPath.exe ファイルをダブルクリックします。